1.　評価結果概要表

評価確定日　平成21年　3月　25日

【評価実施概要】

事業所番号	2278100066
法人名	社会福祉法人　聖隷福祉事業団
事業所名	グループホーム　ほのぼのケアガーデン
所在地 （電話番号）	浜松市北区引佐町東黒田37番2 （053-544-0781）

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年3月7日

【情報提供票より】（平成21年2月24日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成12年4月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10 人	常勤 7人/ 非常勤3 人/ 常勤換算8.1人

（2）建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての1階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	¥28,000		その他の経費（月額）	¥18,000
敷　　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食		昼食	
	夕食		おやつ	
	または1日当たり ¥1,380			

（4）利用者の概要（平成21年2月24日現在）

利用者人数		9　名	男性	0　名	女性	9　名
要介護1		2　名	要介護2	1　名		
要介護3		3　名	要介護4	3　名		
要介護5		名	要支援2	名		
年齢	平均	91.2　歳	最低	84　歳	最高	96　歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	鎮玉診療所、引佐赤十字病院、聖隷三方原病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高齢者ケアに触覚の果たす役割が重要であるとの考えから生まれた「ケアガーデン」はグループホームとしては破格の庭である。地域のボランティアや利用者により手入れされた花壇には車椅子のまま作業ができる花台が並び、利用者は花びらに触れたり、手の届く高さに栽培された野菜を収穫している。高齢化を免れないこの地にあって愛光園は地域資源であり、事業団の理念・運営方針に基づいた実践は住民の安心であり、ケアガーデンを支える原動力となっていると考える。向上心を持ち、120％の力を出したいと願う職員のケアを受けて利用者も明るい。離職者の少ないことからは職場環境の充実が窺がえる。法人の持つ風土と職員の介護精神を高く評価したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回改善をお願いした点について、地域密着型事業所としての理念の策定は職員で検討して従来の理念の中に地域密着型としての文言を盛り込んでいる。また今回の外部評価における自己評価は全員での取り組みとなった。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

全職員に自己評価表を配布して、厳しい目で振り返り、思ったことを記入してもらい管理者がまとめた。職員の記述には管理者の想定外のことも書かれ、新たな気づきを得ることが出来た。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議では、ホームの現況報告・外部評価について・決算報告、また畑の有効活用について等多岐に亘って話し合っている。中学校との情報交換から始まった「生命尊重」の授業では戦争体験者から話を聞いたり障害者と交流することにより、「命」や「生」そして「真のバリアフリー」を中学生に考えてもらう機会となっている。授業を受けた中学生が多くの「隣人愛」に触れ、広がってゆくことを心から願っている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族会は年一回、介護保険の改定時に開催しており、質問等には根拠を提示して明解な説明をしている。バス旅行など家族参加の行事も開催され利用者・家族・職員のコミニュケーションを図っている。家族に限らずボランティアで来所した方々にも感想を頂き外からの声を運営に活用している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

施設周辺に民家はないが、地域の高齢者が庭や畑の整備や運転等に就労したり、利用者・職員も地域の住人が多いため協力が得られやすく、花壇の手入れにボランティアとして参加したり生産物を届けていただいている。中学生の体験学習の受け入れや小学校の学習発表会に招待されたり、子供たちが遊びに来ることもあるなど、利用者には嬉しい交流である。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合い作り上げた事業所理念に、地域密着型サービスとしての思いを盛り込み、「ほのぼのの家のみんなが、居心地がいいと感じられる家作り」を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業団の理念「隣人愛」、施設理念「利用者の尊厳保持を援助の基本に据え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する」と共に事業所の理念は折々の会議等により職員に浸透しており、「職場の理念が自らの思いと一致している」との声も複数聞くことが出来た。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設周辺に民家はないが、地域の高齢者が庭や畑の整備や運転等に勤務したり、利用者・職員も地域の住人が多いため協力が得られやすい。花壇の手入れにボランティアで来てくれたり野菜を届けていただいている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価は職員に回覧し、運営推進会議でも取り上げ改善につなげており、今回自己評価は全員で取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議から発展した取り組みの大きなものは、中学校での「生命尊重」の授業である。管理者がコーディネートして戦争体験者から話を聞いたり障害者と交流することにより、「命」や「生」そして「真のバリアフリー」を中学生に考えてもらう機会となっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併以前より、町から花の苗を提供され、合併後も制度を利用している。利用者は花を観賞したり、触れて楽しんでいる。また、介護相談員を受け入れて利用者の思いを聞き取ってもらっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には近況を報告しており、訪問の機会が少ない家族への報告や急な連絡は電話で行っている。広報誌の配布や金銭管理については規定のとおり報告されている。家族会や家族を含めてのバス旅行など家族同士のコミニュケーションを図る行事も開催されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見や不満は特に出ていない。家族会は年一回、介護保険の改定時に開催しており、質問等には根拠を提示して明解な説明をしている。家族に限らずボランティアで来所した方々にも感想を頂き、外からの声を運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人において、グループホームの異動は出来るだけ抑えている。職員の離職は殆どなく家族も含め馴染みの関係の中での支援が出来ている。また施設間の職員の交流により、利用者が他施設に紛れ込んだときにもグループホームの利用者であることが判りやすく快く受け止めてもらっている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用の職員は法人の研修センターで介護の基礎を学び、その後は定期的に回覧形式で受講し、レポート提出により学びを確実にしている。職場長会議の取り組みは職員に共有し、自己評価の実施により意欲の向上を図っている。資格取得の意識も高く今年度は3名の介護支援専門員が誕生している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浜松市グループホーム連絡協議会に登録して情報交換をしている。他のグループホームからの見学は多く、また他のグループホームを訪問する機会もあり、客観的に見ることにより改めて気づきを得て、サービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職場として、利用者として「愛光園」そのものが地域の方々に馴染みの存在である。利用者に関する情報も得やすくこれまでの暮らしに近づけた支援でホームに慣れて頂くよう取り組んでいる。他の利用者との関係作りにも配慮している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームを自分の職場と理解している利用者もおり、職員と共に勤しんでいる。アクリルたわしを編んで来客にプレゼントして喜ばれる場面もある。職員は助け合える関係作りを心掛けており、調査当日の誕生祝いでは利用者一人ひとりがお祝いの言葉を贈っていた。職員は利用者の自己研鑽の姿勢に多くの教えを戴いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	経過記録はフォーカスチャーティング方式という看護記録シートを用いて利用者のニーズを探っている。日常の会話では利用者から芋づる式に言葉が出てくるよう会話を工夫したり、アンテナを張り巡らして潜在するリクエストを引き出すなど職員は努めている。耳の不自由な利用者との会話は筆談で思いを聞き取っている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者個々に基本的な事と介護計画に関わるものの2本立てで支援がされており、事業日誌のトピックス欄には特に変わったことを記録している。それら職員の気付きや意見を取り入れ、家族とも話し合い、必要があれば管理栄養士や看護師に相談して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に6ヶ月毎に見直している。短期目標の排せつや服薬支援については1ヵ月での変更もある。評価月には家族面接で計画の確認をしているが、利用者に変化が生じた場合は再度話し合い現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特別養護老人ホームやデイサービスとの連携により、レクリエーションやクラブ活動に参加できるよう支援している。また、受診の送迎や外出、家族の宿泊など柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としており、定期受診や夜間にも対応してもらっている。入居以前からのかかりつけ医や専門医の受診は家族と協力して適切な医療を受けられるよう図っている。看護師の巡回もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応指針を基に、入居時には重度化や終末期についてホームで対応できることを説明し理解していただいている。グループホームとしての生活の場を大切にしつつ特別養護老人ホームと連携しており、転退居には言葉を尽くして選択肢や今後の対応を説明している。職員は看取った後に振り返りをしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないように努めている。打ち解けない利用者には好意がおせっかいにならないよう、言葉かけや対応に心しており、不穏の利用者には居場所を感じられるように配慮している。個人情報や記録は事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、一人ひとりの体調や気持ちを尊重した支援がされており、調査当日午前のお茶の時間に朝食を摂っている利用者も見えた。また、生家を訪ねたり、礼拝に出たり毎朝職員と共に仏壇にお線香を上げたりと利用者の思いが遂げられるよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日以外の昼食は調理されたものが届けられる。利用者は盛り付けや配膳、食器洗い等職員と共に行っている。また、畑で収穫した野菜を食事の一品に加え新鮮な味を楽しんでいる。外食を楽しむこともある。	○	食材管理の面から業者から納入されたカット済みの野菜を利用しているが、グループホームの特性である小回りの効く食事作り、職員も同じテーブルで一緒に食事をすることで家庭的な雰囲気は更に増すことと思われるのでそれらについて話し合っていただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者の希望にそって入浴している。広い浴室は床暖房で冬でも足元が暖かく快適に入浴できる。また、夏はゴーヤ棚をグリーンカーテンとして目にも涼めるように工夫している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持てる力を活かして、食事の支度、片付け、掃除、畑仕事、書道等、また雑巾を縫う人、糸を通す人、編み物をする等一人ひとりが楽しみごとをもてるよう支援している。移動図書館で昔の写真集や紙芝居を借りて見るのも楽しみである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には花や野菜の生育を楽しみながら広い庭を自由に散歩している。ドライブや買い物に出たり、時には回転寿司やそば屋で外食を楽しんでおり、家族と教会へ行く利用者もいる。家族も参加して遠方のレジャー施設や浜名湖などに遠足へ出かけている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や庭への出入り口には鍵を掛けずに職員の見守りにより、安全な暮らしができる様に取り組んでいる。人の出入りが分かるようにセンサーが設置してある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間と夜間を想定した火災や地震の避難訓練を、年3回実施している。近くの工場の協力体制もある。食糧の備蓄は特別養護老人ホームにて用意されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの管理栄養士がカロリー、バランスに配慮した献立を作成している。偏った食べ方をする利用者には、より良い栄養摂取が出来るよう食べやすい食事の工夫をしている。医師の指示がある場合には摂食量や水分摂取量等細かく記録している。	○	特に医師から指示がない利用者のバイタル記録のスパンが長いが血圧・体温検針等毎日の確認について検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南面に花いっぱいの庭が広がっている。居間の大きなテーブルでは、食事やレクリエーションをしたり、利用者同士が話をしたり、休んでいる。居間の奥の和室は遠方から来た家族の宿泊にも利用される。中庭を囲んで廊下が廻っており、利用者や家族が寛げるようソファーが置かれ、水槽には金魚が泳いでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室が掃きだしになっており開放感がある。ベッドから見える位置に馴染みのたんすや家族の写真を置き、朝目ざめた時目に入るよう工夫した部屋がある。信心深い方の居室の外にはお地蔵さんの置物が置かれ心の拠り所となっている。仏壇や衣桁、籐椅子等が持ち込まれ心地よく過ごせる部屋作りを支援している。		